

# 「いのちの御霊による新しい政権」

## ローマ8：2

堀田修一 23・5・28

本日は、ペンテコステ（聖霊降臨）の恵みを覚え感謝する礼拝です。本日のみことばは、それに相応しい箇所です。8：1では、主にある者は、今後、主が私たちの罪のために身代わりに罪の永遠の刑罰を受けて下さったので、私たちは、永遠の刑罰を受けるといふ罪の責任を問われることは決してない恵みを確認した。

本日のみことばは、8：1に続き「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです」：2と語られる。このみことばは、三つの要素がある。

I 「罪と死の律法」とは何か。この箇所は、私たち主にある者が罪に定められないのは、「罪と死の律法」から解放されているからと語られている。「罪と死の律法」とは何か。この「律法」と訳されている原語は、「ノモス」で、「律法」とも「原理・法則」とも訳すことができる。「罪と死の原理・法則」と訳した方が文脈に合う。パウロは、7章で私たちの現実の罪との戦いの姿を記した。「私は自分でしたいと思う善を行わないで、したくない悪を行っている」。パウロの真実な叫びである。自分の内側に働く罪の力を認めている。そのような心の罪との戦いは、すべてのキリスト者に生涯ある。しかし、そんな私たちに、素晴らしい力、原理、法則が与えられる！

II 「いのちの御霊の律法（原理、法則）」が与えられる。

「罪と死の律法（原理、法則）」から私たちが解放してくれるのが「いのちの御霊の律法（原理、法則）」である。「いのちの御霊の律法（原理、法則）」とは？それは、私たち主にある者、主と霊的に一体とされた者に与えられる聖霊なる神の偉大な働きのことである。礼拝の中で、私たちは「聖霊を信じます」と信仰告白をする。「聖霊は主、いのちを与える方」である。これこそ、ペンテコステ（五旬節＝ユダヤの祭り。過越の祭り {主の十字架のいけにえを預言する祭り} から五十日目であることから五旬節＝ペンテコステと言われる）に世に下られた御聖霊である。御聖霊の最も大切な働きは、新しいいのちを与える恵みである。聖書に繰り返されている→「いのちを与えるのは御霊です」（ヨハネ6：63）。「いのちを与える御霊」（I コリント15：45）、「御霊は生かす」（II コリント3：6）。「人は、水（神のきよめ）と御霊によって（新しく）生まれなければ、神の国に入ることはできません。…あなたがたは（御霊によって）新しく生まれなければならない」（ヨハネ3：5-7）。「神は私たちに、新しい契約（主が十字架で成就された完全な救いの契約）に仕える者となる資格を下さいました。文字（自分の力で完全に守らなければ救われないという律法）に仕える者ではなく、御霊（主の救いの恵みに感謝し、御霊が完成された聖書のみことばに御霊の力で生きる新しい歩み）に仕える者となる資格です。文字は殺し、御霊は生かす（新しいいのちを下さる）からです」（II コリント3：6）。御聖霊の最大のお働きは、私たちにいのちを与えて生かすことである。主にあるいのちを私たちの心に与えることにより、私たちひとり一人を生かすのが御聖霊の偉大な働き。「いのちの御霊」とは

「いのちを与える御霊」の意。「いのちの御霊」とは、最も御聖霊に相応しい呼び方である。御聖霊は、罪の力より何倍も強い「力」を持っておられる。御聖霊は、「権力」「権威」「霊的な政権」を持っておられる。その御力は、一つの原理、法則として私たちのうちに働く。それ故に「いのちの御霊の律法（原理、法則）」と呼ばれます。

### Ⅲ 罪と死の原理からの「解放の恵み」

私たちが主イエスを信じた時に、私たちのうちに「いのちの御霊」である御聖霊が与えられた。その御聖霊は、私たちのうちにある「罪と死の原理」に対抗され、もう一つの新しい「勢力、政権」を私たちのうちに造り出される。その御力は、私たちが生まれながらに持っている「罪と死の力」より強い力、勢力。そういう意味で、「いのちの御霊の律法（原理）」が、罪と死の律法（原理）からあなたを解放したからです」と言われている。※証し

これは、ある国に大革命が起きて、古い権力が倒されて新政権が誕生する事に似ている。キリスト者とは、霊的な政権交代を心の中で経験した人たちである。私たちは、生まれながら「罪と死の権力」の下で、罪の奴隷として生きていたのである。罪、悪（恨み、憎しみ、陰口、悪口、嘘、ごまかし、他人のものをだまし取る、不正、悪い遊びにはまり、家族に必要なお金を使い込む、酒に酔い過ぎて、理性の判断ができず、とんでもないことをしてしまう等）を犯してはいけないと思っけていても、自分の中にある悪の力を制御できなかった。しかし、何と私たちは感謝なことか！あの日あのときに、御聖霊が主を信じる信仰を下さったときに、同時に御聖霊が私たちの心に内住され、その方の御力が私たちを罪、悪の力から解放して下さった。解放されたとは、罪や悪との戦いが全くなかったという意味ではない。御聖霊により罪や悪の力から解放されたからこそ、御聖霊の力で自分の心の中の悪や罪と戦うことができるのである。二千年前のペンテコステの日に、この世に下られ、主を信じたあの日私たちの心に内住された御聖霊を意識しているだろうか。自覚しているだろうか。余り意識していなかった方々に励ましがあある。

①あなたが、今、「イエス様は、主、救い主、真の神です」と信じており、そう告白することができるなら、その公の告白こそ、御聖霊が心に宿っておられる証拠であり、御聖霊の内住こそ確実に救われている保証である。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言う（信仰告白する）ことはできません。

②自分の心に罪があると本気で認め神に告白（おわび）するなら、それは、心に御聖霊が宿っておられる証拠です。「わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。その方（御聖霊）が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます」ヨハネ16：8。

③聖書のみことばが、完全にすべて分かるわけではないが、少しずつ、理解できるようになっているなら、確かに御聖霊が心に宿っておられ、真の教師としてあなたがたにみことばの意味を深く教え続けておられるのです。「生まれながらの人間（御聖霊により新生していない人、御聖霊が心におられない人）は、神の御霊に属すること（聖書の真理）を受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属すること（聖書の真理）は御霊によって判断する（理解する）ものだからです」I コリント2：14。

④完全なクリスチャンはいません。他の人と比べないで、主を信じる前の自分と比べ、少しでも、御霊の實の「愛（冷たい心の代わりに）、喜び（不平不満の代わりに感謝）、平安（不安ばかりでなく）、寛容（すぐ怒る代わりに）、親切（少しも助けない心ではなく）、善意（悪意ではなく）、誠実（嘘、偽りではなく）、柔和（高慢で威圧的ではなく）、自制（欲望のままの人生ではなく）」が心と人生にあるなら、それは御聖霊があなたの心に内住されている証拠です。私たちの霊的変革を理解するのに、国家の革命は興味深い比喩となる。革命により、旧体制は打ち倒されても、古い勢力が残っており、新政権に反抗し、古い体制に戻そうとする戦いが続く。御聖霊が主を信じる人の人生に新しい支配、政権を始められますが、古い罪の力と悪魔の最後のあがきの戦いは残っていますから、目を覚まして祈り、御聖霊の満たしを日々求め、みことばの剣という武具で罪と悪と戦い勝利をいただきましょう。御霊によって主と交わり、主に近くある時に御力が与えられます。信頼できる人に自分の弱さを正直に打ち明けて、祈り合いましょう。いのちの御霊は、互いに支え合う教会へと導いて下さいます。

祈り：いのちの御霊を感謝！